

## 先生・お薦めの一冊

### 『悲しみの底で猫が教えてくれた大切なこと』

瀧森 古都 著 (SBクリエイティブ株式会社)

国語科 大迫 貴予 先生

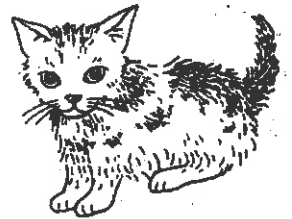
「人は、言葉にだまされ、言葉に傷つけられ、そして悲しみの底で溺れてしまう。

でも、その悲しみの底から救ってくれるのも言葉。ただ、その言葉は人間の声とは限らない。」

本屋に立ち寄った際、猫好きには見逃せないタイトルに、なんとなく手に取ってみた1冊だったが、なんとも心に響く物語であった。

パチンコ屋のしがいない店員・五郎と、成り上がりたいフリーター・宏夢を中心に、多様な登場人物が織り成すストーリーが魅力的である。道楽社長と発達障害の義理の息子、我が子との別れが忘れられない母親たち・・・それぞれが心に傷を持っていて、葛藤しながら日々を過ごしている。「置き去りにされた猫」「溺れかけた猫」「見えない猫」「かっつての猫」、それぞれの猫にまつわる事件によって、自分の心の傷と寄り添い立ち向かっていく姿が、等身大に描かれている。五郎も含め、視点がとめどなく変わるのが特徴的である。

分量も少なく一気に読めるので、時間がないという中央生にもお薦め。人間関係に疲れたとき、絆とは何かを考えたいとき、ぜひ読んでみてほしい。



\*大迫先生お薦めの本以外にも、「猫好き・犬好き」の人々へお薦めの本、あります。

『人生はニャンとかなる!』『人生はもっとニャンとかなる!』『人生はワンチャンス』『人生はZooっと楽しい!』

全て 水野敬也+長沼直樹 著 (文響社)

## 新着図書案内

『青トレ 青学駅伝チームのコアトレーニング&ストレッチ』原 晋 著 (徳間書店)

今年の箱根駅伝を完全優勝で飾った青山学院大学。ここ数年でメキメキと頭角を現してきた青学駅伝チームのトレーニング方法です。陸上関係者のみならず多くのスポーツマンに参考になる1冊です。

『鉱物レシピ』さとう かよこ 著 (グラフィック社)

鉱物の標本の作り方の本です。全ての鉱物が宝石のように輝いて見える魔法の本です。



『新・雑草博士入門』岩瀬 徹 他著 (全国農村教育協会)

季節はいよいよ春。道ばたにも可愛い花が咲き始めます。ホトケノザ・タンポポ・カタバミ・・・、雑草と侮ってはいけません。リバーの土手にもそろそろタンポポが咲き始める頃です。私たちが目にするタンポポはセイヨウタンポポがほとんどです。日本にもともとあったタンポポは少なくなっているとのこと。この本を読めば、あなたもきっと雑草博士になれるはずです!

『本当はすごい小学算数』小田 敏弘 著 (日本実業出版社)

数学の基礎は小学校の算数にあるそうです。小学生の弟や妹がいる人は、いっしょに算数の問題を解いてみましょう。上手く解けるといいですね。

『世界でいちばんかなしい花』瀧 晴巳 著 (ギャンビット出版事業部)

飼えなくなったペットや捨てられたペットたち。青森県立三本木農業高校に通う女子高校生たちが、ペット殺処理ゼロを目指して咲かせた花があります。「いのちの花」と名付けたプロジェクトで、彼女たちは何を伝えたかったのでしょうか。

# 1月のクラス別貸出統計 225冊

4月の総貸出冊数	844冊	5月の総貸出冊数	311冊	6月の総貸出冊数	454冊
7月の総貸出冊数	235冊	8月の総貸出冊数	64冊	9月の総貸出冊数	179冊
10月の総貸出冊数	204冊	11月の総貸出冊数	275冊	12月の総貸出冊数	213冊

学年 組	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	2	6	0	2	2	4	28	4	8	3	3	2	14	9	1	0	0	28	2	39	25	18	12	13
合計	48冊								40冊								137冊							

\*センター試験後の貸出は、そのほとんどが小論文対策の3年生でした。これまでに自分なりに考えてきたことや読んできた本の知識で、論を組み立てていく作業はなかなか大変なことです。今まであまり深く考えたことのなかった問題を、自分の言葉でまとめていくことは容易なことではありません。それでも、難解な本をたくさん読み、それぞれの言葉で論文をまとめていく姿は「さすが鹿児島中央生」でした。最後までこつこつと自分の中に何かを刻んでいくことが、これからの自信に繋がるのではないのでしょうか。

## 『赤頭巾ちゃん気をつけて』

昭和44年第61回芥川賞受賞作品『赤頭巾ちゃん気をつけて』は、作者の庄司薫さん自身の経験から書かれた私小説です。この物語の主人公・薫君は、大学受験を控えた日比谷高校の3年生です。しかし、志望校の東大は学生運動で入試を中止することになりました。果たして薫君は志望校を京大や一橋に変えてしまうのか、それとも浪人の道を選ぶのか…。荒れる大学紛争の時代に、受験を控えた高校生たちは自分の将来に何を描き、大学の事情で受験することができない受験生は、何に怒りをぶつけたのでしょうか。物語の舞台は大学紛争という荒々しい時代背景ではあるものの、この物語はとても穏やかで、知的で、爽やかな青春小説です。

これまでの芥川賞にはない文体に、当時の文壇の反応は様々だったようです。こんな軽い表現はいかなものか・・・と匙を投げた重鎮もいたといいます。賛否両論の中での芥川賞受賞だったそうですが、当時はベストセラーとなりました。大学紛争の後の「三無主義（無気力・無関心・無責任）」と呼ばれた若者達にも支持を得た作品です。

主人公の薫君は高校生。私たちと同じ世代です。時代こそ違えど、私たちと同じようなことに悩み、同じようなことに感動したのかもしれない。タイトルの意味も読後になるほど！と思えるはずです。昭和44年、今から50年近く昔の物語ではありますが、色あせることはありません。当時の世相も含めて、当時の高校生が何を考え、どのように行動していたのか垣間見ることのできる一冊です。薫君と同じ高校時代に読んでみてはいかがでしょうか。



## 編集後記

いよいよ卒業式です。甲突川の川面は柔らかな光を反射し、春がそこまで来ていることを教えてくれます。皆さんの学んだ校舎は、県立第一高等女学校の校舎として、鹿児島県の技師・岩下松雄氏により設計され、昭和10年に竣工したものです。竣工後は大本営がおかれ、また行在所となり昭和天皇が7日滞在なさいました。まさに激動の昭和を見てきた校舎と言えます。正面玄関から入りエントランスホールに入れば、とても学校とは思えない空間が広がります。洒落た明かり取り窓や可愛いシャンデリア。創立20周年記念の中庭の少女像「水辺の囁き」。すべてが優しい気持ちにしてくれます。

明治維新の立役者を数多く輩出した加治屋町。その地に建つ校舎。そして、化学実験室に残る「東郷平八郎誕生之地」のプレート。いつか負けそうになった時、思い出すのは先生方の言葉や友の顔、そしてこの優しい校舎かもしれません。

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。これからも素敵な本との出会いがありますように！

